

倉吉市 人権フェスティバル

■あらゆる差別や人権侵害をなくし「人権尊重のまち倉吉」を実現するために

1月26日(木)～29日(日)の4日間、倉吉未来中心を主会場に、「倉吉市人権フェスティバル」が開催されました。

期間中は、アトリウム・リハーサル室において、市内の保育園・幼稚園、小・中学校、養護学校、社会福祉施設などによる作品展示が行われるなか、28日(土)には、大ホールで「実践・芸能発表の部」が開かれました。発表は、どんぐり保育園児による明るく、元気なパルーン遊びの発表「パルーンでつながる夢と笑顔」で幕を開け、その後、舞台では、高城小学校児童の人権学習の発表、西郷小学校児童による劇「洪染一揆」、せきがねさいとりさし保存会、人権絵本作成委員会の発表と続き、最後に、劇団「あゆみ座」が結婚差別をテーマにした劇『ふみしめる明日』を上演し、総



劇団「あゆみ座」



どんぐり保育園



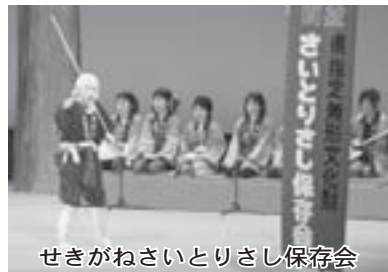
高城小学校



渡邊 実さんの講演



太鼓集団「怒」



せきがねさいとりさし保存会



作品展示コーナー



「怒」による太鼓教室



西郷小学校



ポテ茶コーナー



分科会



人権絵本作成委員会

勢144人が発表を行いました。会場には、大人から子どもまで1,300人余りが来場し、発表者の熱心な発表を鑑賞しました。

また翌29日(日)には、午前中に7つの会場に分かれて、教育現場、地域、組織、職場など、それぞれにおける人権問題にかかわる課題を討議する分科会が開かれ、約450人が参加し、午後からは全体会として、大ホールにおいて、大阪市からお招きして渡邊実さんの「渡邊・西濱・浪速の歴史と人権・太鼓ロード」と題した講演、太鼓集団「怒」による演奏が行われました。来場者は、渡邊さんの熱心でユーモアあふれる講演に聞き入り、また、勇壮な太鼓の演奏に魅了されました。このフェスティバルを通じて、参加者は、これからの人権課題の解決に向けた倉吉市のあらたな胎動のひとつを感じることができました。

ハート・バリアフリー

No. 20



◀平和の灯のモニュメント「夢千代の祈り」
灯は、広島平和公園の核廃絶を願う「平和の灯」を分火したものです。

「いのち」の視点を まちづくりに

仕事や旅行で他の土地を訪ねると、思わぬところで、「平和」「人権」「共生」の取り組みをしている姿に出会うことがあります。今回は、いくつかの事例を紹介し、まちづくりのあり方を考えてみたいと思います。

「夢千代」に 想いを重ねる街

隣県兵庫県の湯村温泉は、NHKドラマ、「夢千代日記」の舞台となったところ。ここに、「夢千代館」という小さな館が数年前にオープンしました。

映画やテレビのロケ地をまちおこしに利用するところは全国的に見られますが、ここは少し違います。

被爆二世としての苦悩を背負った夢千代、その役を演じた吉永小百合さんの平和への想いを前面に出している点で、他にあまり例を見ません。

この館内や温泉街には、広島との交流を示すモニュメントもいくつか設置され、日常的に生活の場で、このまちの

繁栄を支えた 「遊女」の悲哀

大長ミカンで知られる広島県、瀬戸内海に浮かぶ大崎下島。ここに、重要伝統的建造物群保存地区の御手洗地区があります。

ここは江戸時代に出航や潮待ち港として繁栄しましたが、その影には、最盛期100人を超えたといわれる「遊女」の存在がありました。

公園建設のきっかけは、急傾斜地の崩落を防ぐ工事中、108基の墓が見つかり多数の墓の中に、「遊女」のものが含まれていました。これにより、実行委員会が結成され、寄付を集める中で土地を提供してくれる人もありました。

墓石には、本名でなく芸名が刻まれており、郷土史の視点から光が当てられました。

多くが貧困の中で売られ、10年前後の年季奉公があげられ、島を去っていった実態が次々と明らかにされました。

2003年末に、「供養碑を建立し、陽の光を浴びるようにしてあげたい」と、島の中腹に墓を移転し、重要伝統的建造物群選定記念公園「おいらん公園」が完成しました。島の人々の長年の人権の取り組みが、こうした形で実ったことは確かです。

商店街を 「徘徊ロード」に

米子市における商店街の衰退と高齢化を一体的なものとしてとらえ、「近所型福祉」をめざす「田園プロジェクト」。その中心的活動をさしている吉野立さんの言葉です。

「徘徊させないためにはどうしたらいいのか」を主眼においたこれまでの考えから、吉野さんの逆転の発想のすこさに驚かされます。

吉野さんは、自らも認知症の母の介護にかかわり、その体験の中から、「安心して徘徊してもらおう」と、「顔見知りの人たちの営む商店街の活性化」とを結びつけられました。

「近所型福祉」とは、高齢者だけでなく、若者も子どもたちも障害のある人も、まちで暮らす人々が、まちの中で自分の役割を自覚しながら支え合う取り組みです。そして、大事なことは、そこに商店街が不可欠な存在として位置づけられているということなのです。

「活性化」とは…

三つの取り組みに共通するのは、「平和」「人権」「共生」と経済的側面を結びつけている点です。

活性化という時、とかく経済に限定しがちですが、そこで暮らしている人々が、いきいき輝いていなくてはなりません。

一つのテーマに対して、さまざまな分野が同じテーブルに着き、かわるごとの重要性にも、気づかされました。

確かに、それぞれの土地の歴史的背景や地域的独自性に違いはありますが、まちづくりのあり方を考える上で、倉吉市もおおいに参考にしていきたいと思えます。

せき な ひ

⑨ 関金総合運動公園

関金総合運動公園は、野球場、テニスコート、全面芝生の多目的広場、屋根付多目的広場、子どもが遊べる広場などが集まる総合運動施設で、昭和60年から平成10年にかけて整備されました。また近隣には、体育館とプールもあります。

ナイター設備も整い、市内外を問わず、さまざまなジャンルのスポーツ愛好家や団体から、練習や試合会場として利用されています。

■関金総合運動公園

所在地：倉吉市関金町関金宿1620ほか
利用時間：午前8時30分～午後10時
(ナイター利用は午後3時～10時)

※料金・利用申込などの問い合わせ先
関金支所支所管理課 *平成18年3月末まで

(☎45-2111 / FAX45-3964)

倉吉市教育振興事業団 *平成18年4月以降

(☎22-5674 / FAX22-5684)

総合運動公園管理棟 *土日祝日

(☎45-2511)



▲サッカー、フットサル、グラウンドゴルフなどで使用される芝生の「多目的広場」



▲ゲートボールやレクリエーション会場として使用されている「屋根付多目的広場」



▲個人やテニスサークルが、仕事帰りや休日などに利用している



▲すべり台やブランコ、砂場など遊具がそろった「子供広場」



球まーとてー
野さり場れタ
草ら球会さい
のか野合用ナ
元一な試用ナ
チまの試利ナ
ざまの試用ナ
ググしい備も
いい設備も整う



姉妹都市 羅州・華川便り⑩

ナジユ ファチヨン
国際交流員 韓召眞

“梨”ブランドイメージNo.1

先日、羅州市の特産物である「羅州梨」の生産振興に力を入れている人たちが倉吉を訪ねられました。私は随行通訳として、県園芸試験場、東郷梨選果場などを一緒に見学したおかげで、梨についていろいろなお話が分かりました。まず、赤梨の種類ですが、新高、今村秋、晩三吉、豊水、あたご、王秋など、名前を覚えることが大変なぐらい沢山の種類があるということにビックリしました。また、梨は同じ種類の梨を交配しても実が結実しないため、異なる系統の梨同士を交配させ新しい品種を作るそうです。まるで人間の家系のように梨にも親子関係があるということも分かり、とても興味深かったです。

羅州市では現在25種類程度の梨を栽培していますが、梨の栽培が始まったのは日本の弥生時代に当たる三韓時代にさかのぼり、1392年に始まった朝鮮時代には、「羅州梨」を王様に献納するほど、その味が認められていたそうです。

韓国内では、羅州市以外にも梨の生産地はありますが、羅州が梨のブランドイメージナンバー1の座を守れるのは、そ

の歴史と栽培量だけでなく、梨の加工食品の研究が進んでいるからだと思いません。実際、鳥取のある梨の専門家も、栽培技術は鳥取の方が進んでいるかも知れないが、加工食品の技術開発は羅州の方が活発ではないかとおっしゃっていました。

羅州市の特産品に、梨ワインがあります。最近、新たな特産品としてオディ(オウ)というお酒が注目されています。梨汁に桑の実とメシマコブ(キノコ)の一種の成分を入れて作ったこのお酒は、体にいいのももちろん、飲むとお肌もきれいになると聞けば、飲まずにはいられないですね！また、今回新しく漢方医の先生を中心に開発された「梨汁」は、梨を煎じて汁の色が変化しない技術で特許まで取ったそうです。この梨汁は特に喉にいい成分が含まれているため、風邪が流行っている今の時期に飲むとすごく効くそうです。私も飲んでみました。後味がさっぱりして、とても飲みやすかったですよ。美味しい梨を薬としても活用するなんてすごいですね！



▲オディ(体に良い)特産品、オディと梨汁製品